



Y K K

読もう書こう考えよう

みなさんこんにちは、図書館担当の伊丸岡です。夏至も過ぎ、夏本番。猛暑になるとの予報もありますね。

7月は文月(ふみづき・ふづき)です。旧郵政省は文月の「23(ふみ)」の日を、「**ふみの日**」と命名して、キャンペーンを張りました。手紙にはフォーマルなものもあり、用語、書式に決まったものがあります。**フォーマルな手紙が書ける**ということは、ひとつの教養です。みなさんも早いうちに身につけることをお勧めします。

金の葉書 銀の葉書 ただの葉書



「ハガキ」だったか「手紙」だったか定かではないのですが……。こういうことを聞いたことがあります。誰かにお世話になることがあったとします。その日のうちにお礼状をしたためて投函するのが「金のハガキ」。翌日に書いて出すのが「銀のハガキ」。それ以降出すのは「ただのハガキ」という話。つまり、人にお世話になった礼状は早く出すに越したことはない、というたとえなんです。

ただ、「ハガキ」というのは略式のものなので、よほどの相手や場合(お礼や謝罪、依頼など)によっては、きちんとした手紙にすべきだということです。その際には前項に書いたように、決まった書式を踏まないと失礼になってしまうのです。

やっぱり行事はいいね！ 学校祭 全校応援

学校祭、お疲れさまでした。コロナ前の内容、規模というわけにはいかないものの、生徒や先生方の尽力で学校祭が開催でき、ほんとうによかったですね。その直前には、3年ぶりの**野球全校応援**。こちらもやや制限はあったものの、やっぱり全校応援はいいですね。野球部のみなさんのがんばりに感動しました。

それにしても高校の場合、学校の伝統なり文化というものは、1年休めば脆弱となり、2年休めば途絶えてしまう、ということを全校応援の際に痛感しました。以前は自ずと上級生が下級生に範を示し、応援スタイルなり、マナーといったものが継承されていたのだということを実感しました。

かつて「教材には力がある」と喝破した先輩教師がいましたが、授業の「教材」ばかりでなく、行事も一つの力のある教材だと思いました。授業は小さな学びと成長の積み重ね。行事は目に見える大きな学びと成長の機会だと思います。

1年生はまだのお楽しみに 永嶺ウォーク

もう、図書館だよりとは関係ないような内容と思われるかもしれませんが、3年生が行った「旭山動物園」に関して。1年生のみなさんはいつか行く日のために……。

Q1 園内に「タコ」の水飲み場があったのに、気づきましたか？

Q2 園内に「水田」「畑」があったのに、気づきましたか？

「タコ」の水飲みはおそらく開園当初からあったものと思われます。ボクが初めて動物園に行った小学1年生の時、タコと一緒に取った白黒写真があります。飲み口の蛇口は壊れて、普通の水道の蛇口を外側から取り付けたようになってはいるものの、赤と白のペンキは塗り直されて、あちこちで存在感を放っています。あの水飲みで果たして水を飲む子どもがいるのだろうか？それとも、動物の飼育に関してなにか必要があって存在させているものなのだろうか？だれかこんど動物園で聞いてみてはいかがでしょうか？

「水田」と「畑」は、ちょうど園の真ん中へんにありました。向かいに、鉄道のあさひやま動物園号の客席などを展示した建物や、休憩所の建物がある、わりと開けたところ。おかし、ここに観覧車やゴーカーなど、遊園地施設がありました。水田や畑は、深川の拓殖短大が監修して、農業高や実業高の生徒が運営しているとの看板がありました。動物のえさにもなるのかな？いま流行の「サステナビリティ」をめざした施設ということでしょうか。1年生は雨天中止で残念でしたが、今度行くときには気にしてみてくださいね。

旭山にはなんども行っていますが、今回ほど隅から隅までじっくり見て回ったことはないかもしれません。

「読む」「書く」「考える」に加えて、日ごろからいろんなものに「興味・関心を持つ」、「よく観察する」習慣も身につけましょう。「書くためのネタ」貯金は、多いに越したことはありません。



～ ことばつれづれ ～

洋紙100年 和紙1000年



製紙業界だったか、「洋紙100年、和紙1000年」ということばがあるのだそうです。和紙って、すごいね。たしか、和紙の製法技術は、世界遺産に登録されたんでなかったでしょうか。昔は日本各地に和紙の生産地がありました。和紙はそんなに量産できないから貴重なもので、かつ、流通が発達していないため、各地の需要に応じて産地が形成されたのでしょう(北海道にはないけれど)。

みなさんが使っている紙幣も和紙。世界的に見ても、非常に優れた紙質の紙幣なんだそうです。

本に使われているのは洋紙ですが、出版社ごとに微妙に色や厚さ、手触りなんかも違うのを知っているでしょうか。出版社のポリシーと、製紙業者の高い技術力のなせる技なのでしょう。

文庫本だったら、どこの版元の紙質が好きですか?なんて聞かれて答えられる人は、相当な通^{つう}かも?

定期考査いまむかし 自家印刷の急速な進歩

その1 印刷機

ボクが勤め始めた頃は、いまのような、製版からプリントアウトまで1台で一貫した印刷ができる機械はまだない時代でした。

①**製版機**(これをファックスと呼んでいたような気がします。あの、電話機とセットになっている文書送受信機のFAXとは違います。)……この機械のドラムの半面に原稿をセットし、並ぶ半面に製版原紙をセットします。何分かドラムを回転させると、原稿の文字や絵が、製版原紙に焼き付けられる仕掛けです。ヒュンヒュンヒュンヒュンという音を出して回転しており、異臭を放ちました。周囲には黒くて細かい粉が飛んでましたから、体にいいものではなかったのかもしれません。

②**輪転機**(りんてんき、と読みます)……①でできあがった原紙を印刷機械にセットします。これを輪転機と言いました。インクのしみ出るドラムに、皺が寄らないように手でセットし、インクの出具合を調整し、手回して試し刷りを10枚くらいして、やっと本刷りです。手動のカウンターで枚数をセットし、自動で回転させました。ガチャコンガチャコンという音でした。

以上、①と②で、1枚の印刷物を作るのに10分くらいかかったのではないかなあ。だから、試験が始まってから「枚数が足りない!」、「印刷が不鮮明!」なんていうトラブルが発生した場合、追加の印刷をするのは大変なことでした。いまの印刷機は性能もいいし、紙の無駄も出ないし、速いし、きれいだし、臭いも黒い粉も出ないし、何クラス分という注文も受けてくれるし、拡大縮小もできるし、写真原稿もきれいに製版するし、まあ、革命的にすばらA機械となりました。たとえるなら、昔のファックス製版+輪転機は蒸気機関車並み、現在の一体型印刷機は新幹線並みと言えるかもしれません。

なお、印刷用紙も昔は「ザラシ(更紙)」という、茶色くて質の悪い紙でした。両面印刷には不向きでしたから、国語の試験問題はいきおい、枚数が多くなりました。解答用紙も、鉛筆の鉛が光って見えづらく、採点しにくいものでした。

その2 コピー機

いまは、小さな学校でも、事務室にも職員室にもコピー機が置かれるようになってきました。ボクが最初に勤めた学校は、学年5クラスあって、全日制・定時制の職員室が別々にありましたが、コピー機は事務室に1台しかありませんでした。これが不便でね。

だいたいパソコンはおろか、ワープロさえも普及していなかったから、テストは教科書の本文や図表を切り貼りするしかないわけで、するとコピーしては切り貼りし、その上から書き込んでまたコピーして製版機にかけ、とやたらと手間がかかりました。必然的に「手書き」部分の多いテスト問題となるわけで、テストの問題用紙はセンセイの直筆が躍る非常に個性的な紙面でした。



2校目、平成になってからでも、年配の先生の中にはワープロを使わず、現代文の試験でも全文、丁寧に自筆されていた先生もいました。なお、「和文タイプライター」という、超アナログな清書マシーンを駆使する先生も稀(まれ)にいました。

その3 ワープロ専用機

1校目では普通科・商業科の併置校で、商業の先生は早くから「ワープロ」(ワープロ専用機)を個人で購入して使っている方もいました。初期のワープロ専用機のディスプレイには、たった1行しか文字が出ないんです。それが3行分映し出される機械が出たときには「3行(産業)革命!」なんていうキャッチコピーを付けて発売されていました。まあ、印刷物はきれいに作れるようにはなりましたが、そもそも機械は自前で購入、「インクリボン」を使うにせよ、「感熱紙」を使うにせよ、やっぱり自前でした。磁気ディスクは「フロッピーディスク」というちっちゃいCDをプラで包んだような記録媒体でした。勿論これも自前。赤ペン1本からすべて自前でした。

その4 パソコン

2000年代になって、職場にもパソコンが導入され、個人でも「ワープロ(専用機)」から「パソコン」へとシフトしていきます。磁気ディスクも5インチ、3.5インチなどと進化していき、やがてCD、USBなどへと変わっていきます。パソコン本体もデスクトップ型からノート型へ。

こうなるとテストを作るにも大変便利になりました。教科書本文はデータ化された物を加工して利用できます。漢文の返り点や送り仮名も、できあいのものは勿論ありますが、ボクはいつも自前で作っています。



手書きの時代は、通信一つ作るにも、カット集という本から図柄をコピーして切り貼りして、なんてやっていたのが、いまでは指1本で絵でも写真でも紙面に取り込み自由自在にレイアウトできる。何という時代になったことでしょう。学級通信を書いていたセンセイは、お気に入りの「スクールカット集」なる本を個人で持っていたものでした。本校図書館にも、さまざまな「カット集」、各種書体の「レタリングデザイン集」があります。学校祭などで使われたようです。いまはパソコンで簡単に出力できますもんね。

こうしてみると、この三十数年、ホントにセンセイの仕事も様変わりしました。

なんでも「データでのやりとり」になりました。

でも、ここまで来るのには、先生方の大きな自己負担が、公務を進化させたといえるでしょう。いまでは職員室のセンセイの机の上には、一人1台ずつ、公費で賄われたパソコンが置かれるようになりましたが、ごく最近のことです。この20年でボクは個人のパソコンを3台買いました。その前はワープロが2台。個人のパソコンで仕事を覚えてきました。学校の仕事にも使ってきました。そうやって、先生方が個人の大きな負担を重ねてきた上に、いまの学校の情報処理社会があると思います。当初は、雇い主の教育委員会が買ってくれたわけでもなく、使い方を教えてくれたわけでもありません。隣の人に聞いたり見よう見まねで会得してきたわけで、そのため、パソコンの文書作成ソフトは「Word」ではなく、「一太郎」で覚えたのです。仕事に必要なものはすべて支給される公務職種もありますが、教員ってそんなもんです。



教員人生初の試験問題 「半分でもいい」

ボクが最初に勤めた学校では、書道と国語の授業が半々。書道は、とにかく教室から出さないでくれ、壁や天井に墨をぶちまけさせないでくれ、という、変な要請から始まりました。国語はいきなり3年生ばかりの担当。「失敗しても1年で卒業していくから」という、これまた変な理屈でした。さらには、授業のやり方、単元の組み方(いまのようなシラバスなんて無かった)を先輩に聞いても教えてくれず、「あんたは教室に行ったら一人だろ? だったらあんた一人で決めろ」という理屈でした。

で、忘れもしない人生初の定期試験の問題。手書きと切り貼りで苦労しながら、せっかく勉強したことが出なかったらかわいそうだと思い、教えたことは全部問題にしました。

先輩に見てもらったところ、「多いな。半分でもいいな」と言われました。確かに、B4で問題が4枚、解答用紙が2枚。いま考えても然り。半分にすればいいのだな、と理解したボクは事務室へ行って、その合計6枚を全部、半分のB5に縮小コピーし、それを2枚つないでB4版にし、「問題2枚、解答用紙1枚」にしました。先輩に言われたとおり、「半分」にしたわけです。

生徒の反応は、「字が小さくて問題量が多い」。当たり前です。いまもその試験問題は、記念に取ってあります。

同音異字／同訓異字 語彙力の増やし方

「はじめは」と、「はじめた」、さらには「はじめて」。どれが「始」で、どれが「初」か、迷いますね。

そんなときには、熟語で連想してみましょう。

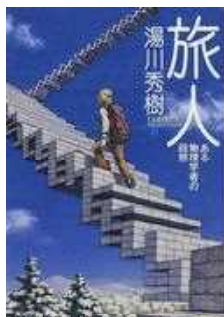
「はじめは」は、「最初は」です。そう、もうわかりましたね。

「はじめる」は、「開始する」です。

「最初」「初回」の「初」は first です。「開始」「始動」の「始」は、start です。

ふだんから、漢字1字が出てきたら、同じ意味の2字の熟語を連想する。それが、語彙力を増やすコツです。漢字は「表音文字」、すなわち、**漢字1字がことばそのもの**ですから、漢字1字から熟語を連想することは、ことばを増やす、語彙を増やすことに他ならないのです。

「とくに」という、文頭の副詞を「得に」と書いてしまう御仁がいます。これも上記同様、「特別に」なのか、「損得」なのか、熟語で連想するとおのずから判別されると思います。



本校にあるものとは
カバーの絵が異なる
が・・・

日本人初のノーベル賞受賞者である**湯川秀樹博士**(ノーベル物理学賞＝1949(昭和24)年)は、原子核の中で、陽子と中性子を結びつける中間子というものが存在するという理論を打ち立てます。理論物理学です。そういう予想というか、想像ができたのは、幼少期から祖父に授けられた漢文の素養が土台となった、と随想に書いています(『旅人』)。

漢字や漢文の世界には、ノーベル賞者を生み出す力がある、といえ大げさかもしれませんが、漢字、漢文に親しむことが、確かに語彙力、想像力を高めてくれるものと思います。それに、漢文には、生きる力、生きる支えになる文章も多いし、漢字漢語は、日本語の根幹を成すものですからね。

『旅人 湯川秀樹自伝』 湯川秀樹 角川文庫

(文庫「ゆ」の棚)

日夜の図書選定

新規購入の図書を選定する作業は、「寝ても覚めても」続きます。といえ大げさかもしれませんが、本当に、新聞の書評や広告を見ても雑誌の書評を見ても、出版社や取次会社からのカタログを見ても、とにかく毎日いつでも、「いい本はないか」と探し続けています。でないと、予算分の図書を選定しきれません。良さそうな本を見つけると、内容やネット上のブックレビューなどを確認し、価格やISBN(13桁の出版情報番号)を確かめ、NDC(3桁の番号ね)は何番になるか、国立国会図書館の番号付けを参考にしたり、まあ、1冊の選定にも手間暇がかかるわけです。場合によってはまず自分で買って読んでみます。

それと、ネタを思いつくたびにこの「YKK」を書きためていくので、四六時中、図書のことを考えたり書いたり、書いたり考えたりしているということになります。幸せです、ほんの少しだけ(本だけに)。

以前の学校で、時間割係をしていたときには、夢の中で時間割の入れ替え作業をしている夢を見たことがありました。「夢に見た時間割」なんていうと、なにか未来型のすてきな時間割みただけけれど、大規模校の年度初めと、高体連の時期のコマ入れ(時間割編成)は、ホントに苦しい作業でした。

夜中に「24番のすずり～」と叫んで、家族を起こしたことがあります。いったいどんな夢を見ていたんでしょうか。ほかには「ど、ど、ドロボー！」って叫んだこともあるそうです。寝言のインパクトでは、家族の誰にも負けません。

話がドンドン逸れていきます。この連想力、想像力は、漢字漢文のたまものか？
(そんなわけないね)





『ヘタな人生論より徒然草』 萩野文子 河出書房新社

(壁側・900番の棚、文学史の棚の2段目)

この本はいい本ですが、いまや単行本はおろか、文庫版も出ていないんだよね。本校には単行本があるから、ぜひどうぞ。いま生きているわれわれにも、しっかりご名答!という処世術が満載です。もちろん、原典で読むもよし、訳本で読むもよし(いずれも複数あり)。

著者の萩野文子氏は、かつて予備校の講師で「マドンナ先生」として一世を風靡した方で(参考書類の著作も多い)、高校生にもたいへんわかりやすく書かれています。

7月のうた

この味がいいねと君が言ったから7月6日はサラダ記念日

(俵万智 『サラダ記念日』 より。文庫本「た」の棚にあります)

北海道新聞6月2日「中高生まなぶん」のコーナーに、歌人・俵万智さんへのインタビュー特集が掲載されています。新聞切り抜きコーナーにも掲示しておきます。

華々しいデビューを飾った第一歌集の、タイトル歌ともなった「サラダ記念日」作歌の裏話など、たいへん興味深い記事です。「わたしは言葉が好きだから短歌に出合った。ぜひ、好きなことを見つけてほしい」と俵さん。

新聞切抜き拾い読み

ここに取り上げた記事は、図書館前掲示板に掲示中です!

館内には3紙の新聞があります。新聞を読む習慣を!



▼「日本史も世界史も 手探りの教員 高校新科目『歴史総合』」

▼「選択科目から必修に 足りぬ教員 高校新科目『地理総合』」 朝日新聞 6/5、12

ことしの1年生から新しい科目が始まりました。国語も科目名からは内容がわかりにくいものへ(「言語文化」「論理国語」など)。記事では地理専門の先生が不足し、「争奪戦」になっていると報じています。

▼「けんこう処方箋 「巣ごもりの副反応」肥満増?」 朝日新聞 6/14

北大病院の先生の文章です。そのなかに、先般発表された「サラリーマン川柳」の中から、筆者が気に入ったという一句を紹介しています。いわく、「**巣ごもりで MからLに 服反応**」。たしか、ボクも報道で見たような気がします。コロナワクチンの「副反応」と、巣ごもりで服のサイズが大きくなった体とを掛けていて、ホントにうまいですね。6万句の中の第4位だそうです。

第一生命主催の「サラリーマン川柳」は、次回から「サラッと一句!わたしの川柳コンクール」という名称に代わるのだそうです。サラリーマンに限定しないけれど、「サラ川」の略称は生きるようにしたんですね。

▼「『知床旅情』鎮魂を込めて 加藤登紀子さん 観光船事故への思い」 朝日新聞 6/12

知床の観光船事故はほんとうに痛ましい事故でした。「知床旅情」を歌った歌手・加藤登紀子さんの思いは・・・。

* * 第1期購入図書決定! * *

本年度1期分の購入図書が決定しました。今回も生徒・教職員のみなさんからのリクエストの他、シリーズものの続き、古くなった本の更新、教科学習や探求学習、小論文、進路学習、教養全般に役立ちそうな本を選びました。どうぞご利用ください。

なお、入荷後、貸出準備(蔵書目録作成、ラベル貼りやブックコートかけ等)ができ次第、貸し出します。

No.	タイトル(一部略記しています)	著者名	出版社	NDC
1	14歳からのプログラミング	千葉 滋	東大出版会	007
2	アメリカの中学生が学んでいる 14歳からのプログラミング	ワークマンパブリッシング	ダイヤモンド社	007
3	<自分>を知りたい君たちへ 読書の壁	養老孟司	毎日新聞出版社	019
4	「読む」だけで終わりにしない読書術		アスコム	019
5	10分で名著	古市憲壽	講談社現代新書	019
6	中高生のための哲学入門	小川仁志	ミネルヴァ書房	107
7	ようこそ心理学部へ		ちくまプリマー	140
8	100の思考実験	バジーニ	紀伊國屋書店	150
9	道德教室	高橋秀実	ポプラ社	150
10	やり抜く自分に変わる超習慣力	ウッド	ダイヤモンド社	159
11	日本神話がわかる神々の暮らし	瓜生中	講談社	164
12	神話でたどる日本の神々	平藤喜久子	筑摩書房	164
13	となりのイスラム	内藤正典	ミシマ社	167
14	20歳の自分に教えた現代史のきほん	池上 彰	S B新書	209
15	これが「日本の民主主義」!	池上 彰	集英社文庫	210
16	明日話したくなる 元号・改元	阿部泉	清水書院	210
17	沖縄の歩み	国場幸太郎	岩波現代文庫	219
18	一冊でわかる韓国史		河出書房新社	221
19	あなたとともに知る台湾	胎中千鶴	清水書院	222
20	物語ウクライナの歴史 ヨーロッパ最後の大国	黒川裕次	中公新書	238
21	よみがえる天才 7 北里柴三郎	海堂 尊	ちくまプリマー	289
22	JK、インドで常識ぶっ壊される	熊谷はるか	河出書房新社	292
23	不思議の国ニッポン 海外メディアは見た	ジャポン	講談社現代新書	302
24	「日本」ってどんな国?	本田由紀	筑摩書房	302
25	ぶっちゃけ、誰が国を動かしているのか教えて	西田亮介	日本実業出版社	312
26	歴史からひもとく竹島 独島領有権問題 その	坂本悠一	清水書院	319
27	国境は誰のためにある? 境界地域サハリン・	中山大将	清水書院	319
28	三省堂基本六法 令和4年度版		三省堂	320
29	法は君のためにある	小貫篤	筑摩書房	321
30	20歳の自分に教えたお金のきほん	池上 彰	S B新書	330
31	「日本型格差社会」からの脱却	岩田規久男	光文社新書	332
32	ビジネスエリート「これはすごい!」を集めた	熊野 整	ダイヤモンド社	336
33	10代で知っておきたい「同意」の話		河出書房新社	361
34	「人それぞれ」がさみしい	石田光規	ちくまプリマー	361
35	みんな自分らしくいるためのはじめてのLGBT	遠藤まめた	ちくまプリマー	367
36	ヤングケアラー		毎日新聞出版社	369
37	ヤングケアラーってなんだろう	澁谷智子	ちくまプリマー	369
38	子どもが教育を選ぶ時代へ	野本響子	集英社新書	370
39	学校はなぜ退屈で大切なのか	広田照幸	ちくまプリマー	370
40	先生、どうか皆の前でほめないで下さい	金間大介	東洋経済新報社	371
41	日本の教育、どうしてこうなった?	児美川幸一郎	大月書店	372
42	読み書きは人の生き方をどう変えた?	川村肇	清水書院	372
43	学校の役割ってなんだろう	中澤 渉	ちくまプリマー	372
44	第四次産業革命と教育の未来ーポストコロナ時代のICT教育ー	佐藤 学	岩波書店	375
45	受験脳の作り方	池谷裕二	新潮文庫	379
46	先住民アイヌはどんな歴史を歩んできたか	坂田美奈子	清水書院	382
47	水木しげるの妖怪えほん	水木しげる	講談社	388
48	ブルーストの記憶 セザンヌの眼	レーラー	白揚社	404
49	東大卒の教師が教える こどもの科学の疑問に	三澤信也	彩図社	404
50	ビーカーくんがゆく!		誠文堂新光社	407
51	工学博士が教える高校数学の使い方教室	水野 仁	ダイヤモンド社	410
52	なぜ地球は人間が住める星になったのか?	山賀 進	ちくまプリマー	450
53	ゾウが教えてくれたこと	入江尚子	化学同人	489
54	絶滅したオオカミの物語	志村・渡辺	三弥井書店	489
55	オオカミの知恵と愛	ダッチャー	日経ナショナル	489
56	安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと	安藤泰至	岩波書店	490
57	心とからだの倫理学	佐藤岳詩	ちくまプリマー	490
58	すごい左利き	加藤俊徳	ダイヤモンド社	491
59	呼吸の科学	石田浩司	講談社	491
60	10代から知っておきたい摂食障害		保育社	493
61	10代から知っておきたい不安病		保育社	493

62	10代から知っておきたい統合失調症		保育社	493
63	10代から知っておきたいうつ病		保育社	493
64	感染症と私たちの歴史・これから	飯島 渉	清水書院	493
65	糖質中毒	牧田 善二	文春新書	498
66	食品の裏側2 実態編	安部 司	東洋経済新報社	498
67	ゆるませ養生	すきさん	大和書房	498
68	マスクを外す日のために	和田秀樹	幻冬舎新書	498
69	最新改訂版 知っておきたい栄養学	白鳥早奈英	学研プラス	498
70	「心」のお仕事	荒井裕樹	河出書房新社	498
71	プラスチック汚染とは何か	枝廣 淳子	岩波書店	519
72	世界のサラダ図鑑	佐藤政人	誠文堂新光社	596
73	ムズカシイことぬき! きほんの和食。	村田明彦	講談社	596
74	発酵来福レシピ	おのみさ	山と溪谷社	596
75	食べる経済学	下川 哲	大和書房	611
76	人とミルクの1万年	平田昌弘	岩波ジュニア新書	648
77	超絶リアルな色鉛筆画のテクニック	ここまる	誠文堂新光社	725
78	税金で買った本(1)(2)	原作: ずいの	講談社	726
80	キングダム 11~20	原 泰久	集英社	726
90	崖の上のポニョ		徳間書店	726
91	フランダースの犬		徳間書店	726
92	あらいぐまラスカル		徳間書店	726
93	舞台に咲け! 1~2	春園ショウ	講談社	726
95	妖怪 水木しげる画集	水木しげる	講談社	726
96	冴えてる一言	久坂部 羊	光文社	726
97	ちはやふる 47~48	末次由紀	講談社	726
99	旅の絵本 X	安野光雅	福音館書店	726
100	五等分の花嫁(1)~(14)	春場ねぎ	講談社	726
114	大絶滅は、また起きるのか?	高橋瑞樹	岩波ジュニア新書	726
115	アンパンマン大図鑑	やなせたかし	フレーベル館	778
116	敗北からの芸人論	徳井健太	新潮社	779
117	山根基世の朗読読本 1 2	山根基世	評論社	809
119	日本語の大疑問	国立国語研究	幻冬舎新書	810
120	日本語の起源	近藤健二	ちくま新書	810
121	ことばのハンドブック 第2版		NHK出版	810
122	NHK間違いやすい日本語ハンドブック		NHK出版	810
123	改訂新版 漢字音符字典	山本康喬	東京堂出版	811
124	三省堂 国語辞典 第8版		三省堂	813
125	日本語 オノマトベのえほん	高野紀子	あすなろ書房	814
126	10才までに覚えておきたい ちょっと難しい	福田尚弘	アーバン出版局	814
127	偏差値レベル式 高3までに語彙をあと1000	福田尚弘	アーバン出版局	814
128	読まずにわかる こあら式英語のニュアンス図	こあらの学校	KADOKAWA	834
129	英単語の語源図鑑		かんき出版	834
130	続 英単語の語源図鑑		かんき出版	834
131	英熟語図鑑		かんき出版	834
132	折口信夫「まれびと」の発見	上野 誠	幻冬舎	910
133	よみがえる天才 8 森鷗外	海堂 尊	ちくまプリマー	910
134	ビギナーズ・クラシック 雨月物語	上田秋成	角川文庫	913
135	ビギナーズ・クラシック 宇治拾遺物語	伊東玉美	角川文庫	913
136	ビギナーズ・クラシック 小林一茶	大谷弘至	角川文庫	913
137	ビギナーズ・クラシック 百人一首(全)	谷 知子	角川文庫	913
138	ビギナーズ・クラシック 西行 魂の旅路	西澤美仁	角川文庫	913
139	ビギナーズ・クラシック 堤中納言物語	坂口由美子	角川文庫	913
140	ビギナーズ・クラシック 近松門左衛門	井上勝志	角川文庫	913
141	ビギナーズ・クラシック 梁塵秘抄	後白河院	角川文庫	913
142	ビギナーズ・クラシック とりかへばや物語	鈴木裕子	角川文庫	913
143	ビギナーズ・クラシック 紫式部日記	山本淳子	角川文庫	913
144	ビギナーズ・クラシック 良寛 旅と人生	松本市壽	角川文庫	913
145	ビギナーズ・クラシック 大鏡	武田友宏	角川文庫	913
146	ビギナーズ・クラシック 伊勢物語	坂口由美子	角川文庫	913
147	ビギナーズ・クラシック 新古今和歌集	小林大輔	角川文庫	913
148	ビギナーズ・クラシック 南総里見八犬伝	曲亭馬琴	角川文庫	913
149	ビギナーズ・クラシック 土佐日記(全)	紀貫之	角川文庫	913
150	ビギナーズ・クラシック 和泉式部日記	和泉式部	角川文庫	913
151	ビギナーズ・クラシック うつほ物語	室城秀之	角川文庫	913

152	ビギナーズ・クラシック 方丈記(全)	鴨長明	角川文庫	913
153	ビギナーズ・クラシック 更級日記	菅原孝標女	角川文庫	913
154	ビギナーズ・クラシック 古今和歌集	中島輝賢	角川文庫	913
155	ビギナーズ・クラシック 古事記		角川文庫	913
156	ビギナーズ・クラシック 今昔物語集		角川文庫	913
157	ビギナーズ・クラシック 徒然草		角川文庫	913
158	ビギナーズ・クラシック 蜻蛉日記		角川文庫	913
159	ビギナーズ・クラシック 源氏物語		角川文庫	913
160	ビギナーズ・クラシック 万葉集		角川文庫	913
161	ビギナーズ・クラシック 平家物語		角川文庫	913
162	ビギナーズ・クラシック 竹取物語(全)		角川文庫	913
163	ビギナーズ・クラシック 枕草子		角川文庫	913
164	ビギナーズ・クラシック 奥の細道		角川文庫	913
165	木曜日の子ども	重松 清	角川文庫	913
166	再生	石田衣良	角川文庫	913
167	ころろ	夏目漱石	新潮文庫	913
168	桜のような僕の恋人	宇山佳佑	集英社文庫	913
169	旅屋おかえり	原田マハ	集英社文庫	913
170	おしまいのデート	瀬尾まいこ	集英社文庫	913
171	大人は泣かないと思っていた	寺地はるな	集英社文庫	913
172	芥川龍之介全集 全8冊セット	芥川龍之介	ちくま文庫	913
173	櫻子さんの足下には死体が埋まっている 櫻花の	太田紫織	KADOKAWA	913
174	同志少女よ敵を撃て	逢坂冬馬	早川書房	913
175	メディコ・ペンナ	蓮見恭子	ポプラ社	913
176	ノーゲーム・ノーライフ 9~11	榎宮 祐	KADOKAWA	913
179	ノーゲーム・ノーライフ プラクティカルウォ	榎宮 祐	KADOKAWA	913
180	宙(そら)ごはん	町田そのこ	小学館	913
181	ビタミンF	重松 清	新潮文庫	913
182	小さき者へ	重松 清	新潮文庫	913
183	日曜日の夕刊	重松 清	新潮文庫	913
184	愛妻日記	重松 清	講談社文庫	913
185	ねにもつタイプ	岸本佐知子	ちくま文庫	914
186	常識のない喫茶店	僕のマリ	柏書房	914
187	人生讃歌 北国のぬくもり	小檜山 博	河出書房	914
188	万葉と沙羅	中江有里	文藝春秋	914
189	定形外郵便	堀江敏幸	新潮社	914
190	救命センター	浜辺祐一	集英社	916
191	中国文学をつまみ食い	武田雅哉	ミネルヴァ書房	920
192	陶淵明 全詩文集	陶淵明	ちくま学芸文庫	921
193	ミッドナイトライブラリー	ヘイグ	ハーパーコリンズ	933
194	天国からはじまる物語	ゼヴィン	理論社	933
195	戦争は女の顔をしていない	アレクシエー	岩波現代文庫	986
196	進化の謎を解く発生学-恐竜も鳥エンハンサー	田村宏治	岩波ジュニア新書	481
197	やらかした時にどうするか	畑村洋太郎	ちくまプリマー	141?

夏休み長期貸出 7/20(水) ~ 8/17(水)まで

ひとり5冊まで! (延長したい場合は一度返却の手続きを)

- *雨ニモ負ケズ...夏ノ暑サニモ負ケヌ...とはいうものの、あさの司書室の室温35℃にはいささかまいる。
 *市立中央図書館から夏休み中の「月曜開館日」のポスターが来ています。こしも、通常休館日の月曜を、
 学生のために開館してくれるようです。職員室・図書室入口に掲示中。ご利用ください。
 *さすが全国紙。6月28日(火)朝日新聞の朝刊1面トップ記事は、「梅雨最短 東海13日間 関東甲信越
 21日間」という見出し。逆に旭川では6月としては最多の降雨で、決壊した川も。災害にご注意あれ。
 *7月17日は「北海道みんなの日」、8月1日は「旭川市民の日」。関連図書、企画展示します。

そうだ! 図書館へ行こう!

三浦綾子記念文学館、井上靖記念館、旭川文学館にも行ってみよう!

(文責 伊丸岡圭一)